

建設 防災 ボランティアニュース 第 26 号

新春を迎えて

新年あけましておめでとうございます。関東地方は、三が日天候に恵まれ、大変穏やかな正月を迎えることが出来ました。会員の皆様もご家族と共にゆっくりと過ごされたことと存じます。

昨年は、食品関係を初めとして様々な偽装が社会問題となり、恒例の年の文字も「偽」と言う字が選ばれた社会的に不信に覆われた 1 年でした。今年 1 年は、三が日の恵まれた天候のように晴れやかな年となり、年末には明るい希望に満ちた文字が選ばれるようになってほしいものであります。

さて、当ボランティア協会の活動も会員の皆様の積極的な協力と建設局、道路整備保全公社、ならびに公園協会の支援を受けて昨年 6 月に新宿角筈会館において盛大に 10 周年記念式典を迎えることが出来ました。これも一重に会員皆様の日頃からの多大なご協力の賜物と感謝しております。当協会の活動も発足当初から比べると大変多岐に渉るようになり会員皆様へのご負担も大きくなってきていると思われませんが、このことは、当ボランティア協会の活動に対する高い評価と期待への表れと自負しております。

今年は 10 周年を過ぎて、新しい一歩を踏み出す年に当たります。幸いなことに新入会員の参加もあり、会員数は 150 数名を数え充実した活動が期待できる組織となっています。気持ちを新たに、関係機関との連携を蜜にして会員の皆様と共にボランティア協会の益々の発展をめざし頑張ってまいりますので本年もご協力よろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、この紙面を借りまして、日頃協会の運営等にご支援、ご協力を戴いております東京都建設局、東京都道路整備保全公社、及び東京と公園協会など関係機関の皆様にお礼申し上げますと共に、昨年同様よろしくお願い申し上げます。

平成 20 年正月 会長 沼尻 執

平成 19 年度 砂防講習会の開催

毎年実施されている「砂防講習会」が、昨年の 12 月 20 日(木)14 時から、37 名の会員の方が参加して、道路整備保全公社の会議室で開催されました。

小山副会長の挨拶で講習会が開会され、都議会終了後のご多忙中にもかかわらず、高橋河川部長、石井防災課長からご挨拶をいただきました。



高橋河川部長の挨拶

その中で、東京都の財政と砂防事業関係予算についてのお話があり、その後、次第に従い以下の順で講演がありました。

- 1.「平成 19 年の主な土砂災害について」
防災課高橋砂防係長



高橋砂防係長の講演

- 2.「新たな土砂災害対策の展開について」

計画課藤橋計画調査係長

3.「洪水予報について」

防災課根津防災係長の方々から約 30 分間づつ、わかり易く丁寧なお話を聞くことが出来ました。



参加ボランティア会員

なお、当日の講演の要旨は以下の通りです。

「平成 19 年の主な土砂災害」

今年の主な土砂災害としては、能登半島沖地震や新潟中越沖地震等、地震による土砂災害を始め、台風による大雨で全国で 833 件の土砂災害が発生し、東京都においても、台風 9 号では多摩地域で、台風 20 号では三宅島で土砂災害が発生した。

このため、3 件の災害関連緊急砂防事業を国交省に申請し採択された。

「新たな土砂災害対策の展開」

都内には、推定 8,000 箇所もの土砂災害危険箇所がある。土砂災害から都民の「生命」と「暮らし」を守るために、災害発生箇所及び保全対象が多い箇所の重点整備、危険箇所の警戒避難体制確立に必要な土砂災害警戒区域の指定等のソフト対策と非難所の安全確保を図るハード対策、及び火山噴火対策等を強力に推進する。

「洪水予報」

都内の中小河川は、集中豪雨時には短時間に水位が急上昇する等のことから、水位予測が困難であった。しかし、都は気象庁の一時間先までの予測降水量や水位観測データなどを活用して水位予測システムを構築した。現在、神田川水系の洪水予報河川の指定に向け気象庁と基準水位の設定などの検定を進め、20 年度からの運用を目指している。

最後に、この講習会の開催にあたり、大変お忙しい中お世話をしてくださいました防災課高橋砂防係長をはじめ関係者の皆様にお礼申し上げます。

担当理事 二宮 克弘

砂防ボランティア講演会報告

平成 19 年 12 月 20 日に道路整備保全公社会議室で砂防ボランティア講習会が開催されました。午後 1 時半の開会後、石井防災課長からのご挨拶と「都の財政と砂防事業関係予算について」の事業説明がありました。

局予算は前年度を上回る額が確保できそうだが執行体制が課題となること。砂防については、全国的には事業減が見込まれるが、東京は例年規模程度の見通しというお話でした。



石井防災課長の挨拶

高橋河川部長は多忙の中急遽出席され、ボランティアへのお礼と今後の協力依頼及び、危険箇所の区域指定に向け地元説明の実施など執行体制の整備が必要との話がありました。



参加ボランティア会員

講演は、まず高橋晋防災課砂防係長から「平成 19 年の主な土砂災害について」と題して、八王子で行われた訓練の実施状況、平成 19 年は土砂災害による死者がゼロであること、都内では台風 9 号による降雨があったが砂防ダムが効果を発揮したこと、台風 20 号による三宅島の被害などの説明がありました。

次に藤橋知一計画課計画調査係長から「新たな

土砂災害対策の展開について」と題して、開発行為などにより危険箇所が増加している現状から、「警戒避難体制の確立」、「開発抑制」のソフト対策を推進する土砂災害防止法が施行され、「砂防施設等の整備」とともに3本柱で土砂災害対策を進めていくこと、また新たな防災情報として土砂災害警戒情報を発表する準備を進めているという説明がありました。



藤橋計画課計画調査係長の講演

三番目は根津和近防災課防災係長から「洪水予報について」と題して、神田川水系で20年度から気象庁と共同で洪水予報の発表を予定していること、そのため水位の監視体制をどうするかなどの課題があるという説明がありました。



根津防災課防災係長の講演

砂防対策はハード対策だけでなく、開発抑制や避難などのソフト対策を併せて実施することが重要であり、情報提供により住民の理解を得ること及び執行体制が大きな課題だと再認識しました。

お忙しい中資料の用意・講演された係長さんにはもとより、会場設営にあたられた河川部職員に感謝申し上げます、講演会の報告とします。 吉田 安輝

救命技能認定講習会の開催

19年度の標記講習会が新規受講者を対象に新

宿消防署で12名の会員が参加して開催されました。

救命技能認定講習会報告—1

あいにく大久保駅を下車したところ急にみぞれが降り出し、歩道の積雪に足を取られながらやっと新宿消防署に到着。この寒い中での受講は厳しいなと、思っていたところ室内は程よく暖房が効いておりひとまず一安心。

救命講習には2時間コースと4時間コースがあり今回はAEDの操作扱いと、実技と筆記試験がある4時間コースとのことであった。浦野講師の軽快な口調で重点事項の解説や、さりげなく記憶に残るようにユーモアを交えて、和やかなうちに的確な説明が流れるように行われた。

説明が一通り終わると早速心肺蘇生の実技を人形を使いながら、一人ひとり行われた。時々気を抜くと見るや、さりげなく叱咤激励の声飛び緊張を余儀なくされ何時の間にか体で覚えてしまうような巧みな進め方であった。



心肺蘇生の実技訓練

途中休憩の後、最近普及しだしたAEDの重要性と効果についての説明があり、実際に機器を使い実技を行った。突然の心肺停止においては、なんといっても時間との勝負であり、出きるだけ早く除細動を行うことで1分経過する毎に7~10%生存率が低下し、2分後で75%の生存率が10分後には0%になるといわれています。

いづれにしてもAEDが到着するまでに心肺蘇生の胸部圧迫と人口呼吸を絶え間なく行い、AEDの到着を待つことが大事なことです。今回の講習においては、従来までより明確に心肺蘇生(CPR)とAEDの重要性をはっきりと認識できました。これからは素早く且つ、適切に行動が起こせる行動力と勇気をもてる様に心がけることが大事と感じました。

実技の後に簡単な筆記試験があり、めでたく全員が合格し、後日認定書が交付されることになりましたが、せっかく頂いた認定書に恥じない行動が行えるかが肝要だと思います。



筆記試験中

最後に御多忙の折熱心に講義いただいた救急協会の浦野さん、新宿消防署の杉本さんに紙面より感謝の意を表します。
来原 昌

救命技能認定講習会報告—2

1月23日、早朝からの雪が駅に着いた時には、激しい降り方になっていた。滑らないように気をつけながら講習会場の新宿消防署へと歩を進めた。そう、本日は救命技能認定の講習会であり、会場には担当の二宮理事が待っていた。

13時から新宿消防署の職員と(財)東京救急協会役員の方2名が講師で講習が始まりました。参加人員は12名、テキスト本にのっとり講義は進んでいきます。救命措置の心肺蘇生のやり方、マウスピースを使用した人工呼吸法、胸骨圧迫のやり方等力の要る作業でした。



AEDの使い方訓練

休憩後、AED(自動体外式除細動器・建設事務所には置いていないとのこと)の使い方及び訓練を

行いました。(119番し胸骨圧迫の措置をしている間に救急車が来るので交代となる)その他に気道異物除去・応急手当(止血方法)のやり方を習いました。

最後に、訓練の知識を確認のため〇×式の問題が出され、全員がはなまるをもらい4時間の講習が終わりました。帰る時には雪もやみ小雨となっていた。実際、その場に出会った時に、この知識が生かせるよう教本を読返し、講習で行った声出しの訓練を行いたいと思います。3年後の更新講習、事務局の皆様宜しくお願いします。

なお、私は北南建の管理課に在職し、窓口事務を担当しています。都庁職建設支部の組織に再雇用部会があって、副委員長の私を含む再雇用部役員4名がボランティア協会に登録しており、いつでも応援できる態勢となっていますが、事務所からの訓練には声がかかりません。

後藤 和男
(会員の参加要請にあたっては、その人選・連絡体制等を再確認し、十分な準備の下に進めてまいります。
担当理事 吉田正一)

協会からのお知らせ

1. 石川金治さん叙勲のお祝い会開催について
当協会員の石川金治さんにおかれましては、昨秋に「瑞宝小授章」を叙勲されました。
「石川さん叙勲を祝う会」が4月16日(水)19時から「スクワール麴町」において開催されます。
会員の皆様には別途御案内が送られますが、年度初めの何かとお忙しい時期でありますので、予めお知らせいたします。
2. 平成19年度の施設見学会を3月17日に今春開通する「新交通日暮里舎人線」で開催いたします。
3. 平成20年度の建設防災ボランティア会員登録継続確認書を同封しました。
4. 編集後記
19年度最終号は、予定より早めて砂防講習会、救命技能認定講習会を中心に発行しました。寄稿者の皆様ご協力ありがとうございました。

発行人：沼尻 執

発行：東京都建設防災ボランティア協会

所在地：東京都新宿区西新宿2-3-1

財団法人 東京都道路整備保全公社内

編集：加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫